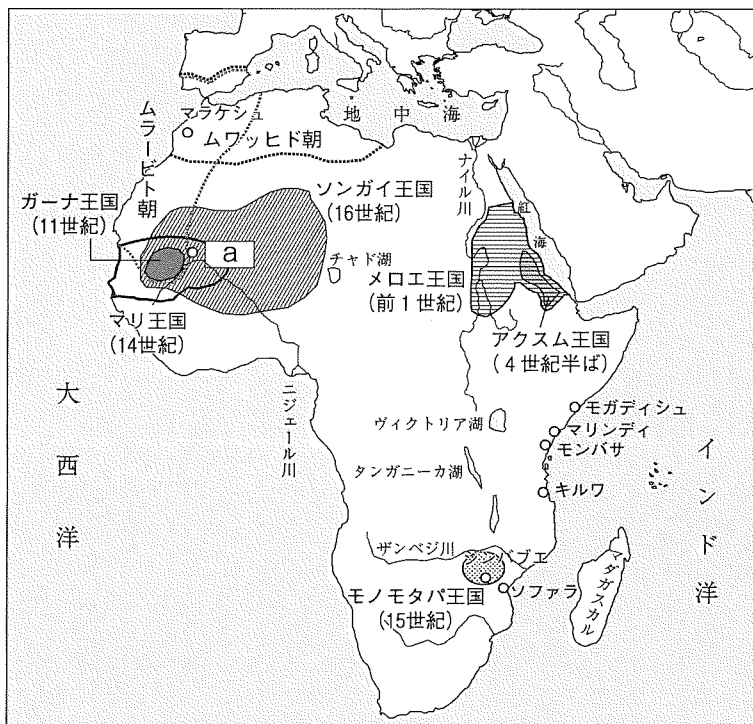


【4】 アフリカの諸王国

最古の黒人王国は、前10世紀にナイル川上流域に成立した（ 1 ）王国で、一時はエジプトをも支配したが、前7世紀にアッシリアがエジプトに侵入するとメロエに遷都し、製鉄と商業で栄えた。しかし、後4世紀にはエチオピアの（ 2 ）王国によって滅ぼされた。

西アフリカでは、8世紀以前から（ 3 ）王国が、西アフリカ産の金とサハラ砂漠産の（ 4 ）などを交換するサハラ縦断貿易によって発展したが、11世紀には北アフリカのムラービト朝の攻撃を受けて衰退した。（ 3 ）王国衰退後に興った（ 5 ）王国は、マンサ＝ムーサ王のもとで最盛期を迎えた。この（ 5 ）王国や、その支配下から15世紀後半に自立した（ 6 ）王国では、黒人のイスラーム教徒が支配権を握っており、ニジェール川中流の交易都市（ 7 ）は内陸アフリカにおけるイスラームの学問の中心地として発展するとともに、「黄金の都」としてヨーロッパにも知られた。

インド洋に面する東アフリカの沿岸部ではムスリム商人の活動により、（ 8 ）・モンバサ・ザンジバル・キルワ・モザンビークなどの港市が繁栄し、バントゥー語とアラビア語が融合して成立した（ 9 ）語による文化が生まれた。（ 8 ）には、明の鄭和の分遣隊が到達したほか、ヴァスコ＝ダ＝ガマもこの地を経由してインドへ向かっている。またアフリカ南部、大ジンバブエ遺跡が残るザンベジ川流域では、11世紀頃から（ 10 ）王国が栄えた。



16世紀までのおもなアフリカの諸国

a …マリ・ソンガイ両王国の経済・文化の中心都市